

## 令和元年度 大阪国税局長賞

消費税率引き上げと私たちができること

奈良学園高等学校 二年 植田 陽南

私は高校二年生での現代社会の授業やSSHの税に関する活動で、正しい知識とそれに基づいた自分の考えを持てるようになったと感じている。

私は消費税率十パーセント引き上げに賛成だ。理由は政府が実行にあたってきちんと国民のことを考えて対策していると感じるからだ。消費税の逆進性の側面から低所得者層の負担が増すが、安価なものの選択など努力次第で負担軽減が可能だ。さらに政府も私たちの負担の大幅な増加を危惧して食料品の軽減税率を導入し、対応したレジの普及も積極的に呼びかけている。私達は日本に暮らしている以上、ただ政府の方針に反対するのではなくその中で良い暮らしができるように努力すべきというのが私の考えだ。

しかし、反対する人の意見も分かる。おそらく彼らは税金の無駄使いを感じているのではないかと思う。再選挙や国会の開催、議員の給料は私達の税金なのに、テレビで国会議員の汚職や不正を見聞きしていると、確かに消費税引き上げは無意味でお金の無駄使いに感じる。私も税について習う前は反対派だったが、消費税は安定して税収が得られる策であると分かったので、政府には引き上げに際して国民にしっかり説明して、引き上げて得たお金を有効に使ってほしいと強く思う。

税の有効な使い道とは何だろうと考えた時に、私は借金の返済費用に充てることだと思った。こんなに借金をしているのに信用があるのは日本円くらいではないか。信用を得ているから現在の日本が成り立っていて、もし日本円が信用されなくなったら大打撃どころではない。逆に日本が借金の返済に積極的な姿勢を見せていけば、日本の信用度はさらに上がるかもしれないと考えた。ちょうど学校のSSH学習で自分が財務大臣になって政策を考えてみようというものがあったので、私はプライマリーバランスの黒字化を意識して取りくんでみた。

私が政策を考えた結果、すごく難しいんだなと分かった。プライマリーバランスの黒字化を意識しても、消費税率の引き上げ以外にどの割り充てを増減したら効率的で現実的かが分からない。社会保障をゼロにするという大胆なグループもあったが非現実的だし、軍事費を下げたら災害の時に自衛隊が活動できない。とても難しい取り組みだったが実際に発表を財務省の方に聞いて意見していただき、すごくためになった。

実際に私たちが財務大臣になるわけではないが、できることはたくさんある。まずはこのように授業や体験にきちんと取り組んで正しい知識を身に付けること。そして、その知識を持って選挙で意見や政策に賛同できる人に投票すること。税は私たちの生活をよりよくしてくれるものなので、私たちも税とそれを取り巻く政治についてきちんと向き合って考えていくべきではないだろうか。